

美容整形なんでもQ&A 連載Vol.1

美容整形が流行している現在、興味を持つている方も多いと思いますが、それ以上に質問も多いはず。今月からスタートするこのコーナーでは、美容整形に関しての疑問や質問を分かりやすく盛・美容外科の盛虹明院長に回答してもらいます。

Q1.

美容整形をした部位のリバウンドはないのでしょうか？

A1.

ダイエットに失敗して、元の体型に戻ってしまったという意味でなら、美容整形に関してはリバウンドがないのが前提です。しかし、いくつかの部位で元に戻る事があります。

例をあげて説明しましょう。まず、脂肪吸引術に関してです。そもそも脂肪細胞の数は生涯決まっていますが、太ってしまうのは脂肪細胞そのものが大きくなることによるものです。脂肪吸引術では脂肪細胞そのものの数を減らすので、よほど体重を増やさない限り、リバウンドは起きません。二重の手術で埋没法の時、まぶたの厚い人、皮膚が垂れている人ではまれに二重がとれる可能性があります。またフェイスリフト術も10年から15年後、つまり加齢や引力によりたるんできます。その時は再び手術ができますが、それでも同年代で手術をしなかった人に比べると5歳～10歳は若く見えます。

Q2.

美容整形した後、納得のいく仕上がりにならなかった場合、もう一度手術をやり

直してもらえるのでしょうか。もし、やり直した場合に失敗等は発生しないのでしょうか。

A2.

もちろんやり直しはできます。ただ、納得がいくというのはなかなか難しいもので施術した医師や周りの人たちがいくら「うまくいった、キレイね」と言っても本人が納得しない限り、それは満足し得ないです。そのような場合、何度も施術をやり直したとしても料金や整形した部位に問題が生じる可能性は十分あるのです。正直なところ、我々医師としてはやり直しは極力避けたいと言うのが本音です。ですから、術前のカウンセリングが最も重要なのです。何度も話し合い、医師側も患者さんにメリットだけを言うのではなく、デメリットもはっきり認識させるという努力が必要でしょう。最終的には本当に信頼のおける医師かどうか患者さんもしっかりと見極める目を養うことがポイントになると思います。また、何事もヨクヨク悩んでしまうような人やイエス・ノーをはっきり言えない人も美容手術は慎重に考えた方が良いでしょう。

Q3.

まだ成長中の若い時に手術を行っても大丈夫でしょうか。また成長後、何らかのトラブル発生はないのでしょうか。

A3.

体の成長は平均的には、女性は16歳、男性は18歳で完成すると言われています。それまでは発育過程にあるわけですから、

体はどんどん大きくなる方向で成長して行きます。美容手術の適性年齢もこの体の成長に合わせて大きく4つに分けられます。

【生まれてすぐ手術をした方が良いもの】

これは先天性の奇形・変形が認められる場合です。耳やアザなどは生後3ヶ月以内に相談していただく方が良いでしょう。

【成長期に手術をするもの】

二重まぶたやビアスの施術は20歳前の成長期が良いでしょう。

【成長後に手術をするもの】

この部類に入るものは、隆鼻・整鼻・あごを含めた顔の輪郭の矯正・脂肪吸引・包茎・女性の陰部などがあります。これらの手術は成長期に矯正してもその後の成長により変化しますので完全に成長し終わってからの方が良いのです。

【中年以降の手術】

フェイスリフト・シワ取りは、30～35歳以降になります。自分で老化現象を感じたら相談すると言うことでいいと思います。また、クセジワは取れにくいので、その前に手術を受けると良いでしょう。

盛・美容外科／盛 虹明院長
医学博士、日本形成外科学会会員・日本美容外科学会会員

16年間の日本滞在期間中、横浜市立大学医学部形成外科などを経て、04年6月に上海へ帰国。日本での豊富な経験を活かし、上海で日本と同じ高レベルの治療を提供している。

美容整形なんでもQ&A 連載Vol.2

美容整形が流行している今、「やってみたい！」と興味を持つ一方で、「ホントに大丈夫なの？」と不安や疑問を持つ人も多いはず。そんな美容整形に関しての疑問に分かりやすくお答えします。回答は盛・美容外科の院長、盛虹明先生です。



Q1.

二重まぶたの整形に「埋没法」と「切開法」があると聞きますが、違いは何ですか。また、メリットデメリットを教えて下さい。

A1.

【埋没法】

メスを使用せず二重のラインに沿って糸を3点留める方法（目の筋肉の中にある軟骨上の部分を二重のラインに沿って目頭、真ん中、目尻の3点を留めることにより、二重のラインがより自然に美しく仕上がる）です。施術時間は約20分です。術後の治りが早く（翌日よりOK（個人差あり）、ハレもほとんどありません）。また、術前の目に戻したり、二重の幅を変えることも可能です。いちばん敏感なまぶたの裏側まで糸を通す方法を行っているところもありますが、私どものクリニックでは裏まで糸を通す方法は行っていないので、痛みはほとんどありません。ただ、まれにまぶたの厚い人、まぶたのヒフが垂れている人などは、糸が取れてしまうことがあります。比較的若い人向きと言えるでしょう。

【切開法】

二重をより魅力的かつ確実にしたい場合には、「モウコヒダ（目頭）」をZ型（ギザギザ）に切る方法があります。この方法ですと、切り込みを入れた箇所が上下方向に開くことに

なるので、まぶたを引っ張っていたヒダがゆるみ、目を大きくすることができるのです。ただ、術後にハレが残りやすいのが難点です。ハレが引くのにかかる時間は、個人差がありますが、約3日～1週間です。切開法は、埋没法のように元に戻したりすることはできません。埋没法よりは難しいですが、二重の幅を広げたりするのは可能です。

Q2.

加齢とともに整形した部位が「くずれて来た」と聞いたことがあるのですが、そういったことは実際にあるのでしょうか。

A2.

確かに20～30年前の方法・技術ならばそういったことがありました。今は少なくとも国が認めていない薬物は使用できませんし、以前に比べ技術力も各段の進歩をとげてきていますので、ご心配はいらぬと思います。ただドクターによって技術力は違います。その技術力を見極めるには、①カウンセリングの際に、そのドクターが同じ手術をしたときの術前、術後の写真などを見せてもらって詳しく説明してもらう。②過去にそのドクターに施術をしてもらった人などから評判を聞くなど情報収集する。③ドクターの信頼性や、アフターケアがどの程度のものかを確認するのがベストです。また、最新式の施術法だと強調しているものや施術そのものがごく簡単だなどとうたっているのも注意した方が良いでしょう。技術の確立された昔ながらの方法がいちばん良い場合もあるのです。また、最新式でも必ず安全とは限りません。例えば、豊胸や隆鼻の場合は、自分の脂肪を注入する方法ですが、生着率（固定率）が20～30%と低く、型の保持が難しくまた、シコリになる可能性もあり、レントゲンを撮ったときに

ガン細胞と間違われることがあるなど面倒なことになる可能性があるのです。とにかく美容外科の手術に対して「手軽なもの」ととらえるのは困ります。

Q3.

事故などで傷跡ができた場合に、美容整形で完全に消すことは可能でしょうか。

A3.

まず、最初に認識していただきたいのですが、手術やケガなどで体に傷をつけることが起きた場合、必ず傷跡は残るものだということです。美容手術にしてもそれは同じで基本的な考え方としては、傷跡を完全に消すような施術はありません。ただ、最近の技術レベルは非常に高くなり、施術によってはほとんど残らないというところまでできています。加えて、傷跡を目立たないものにするために、最近では傷をしっかりくっつけておくための「形成外科的縫合法」という技術を駆使しています。この技術は、形成外科や美容外科ではごく一般的に行われているもので、この技術をマスターしているドクターが施術をすれば傷は、ほとんどわからなくなるでしょう。ですから、いくら傷跡が残ると言っても虫めがねなどでじっくり見ればわかるかも知れないという程度で、現在の美容手術は、傷跡が他人に分かることは非常にまれというのが結論です。

盛・美容外科／盛 虹明院長
医学博士、日本形成外科学会会員・日本美容外科学会会員

16年間の日本滞在期間中、横浜市立大学医学部形成外科などで経験を積む。
04年6月に上海へ帰国。日本での豊富な経験を活かし、上海で日本と同じ高レベルの治療を提供している。

美容整形なんでもQ&A 連載Vol.3

美容整形が流行している今、「やってみたい！」と興味を持つ一方で、「ホントに大丈夫なの？」と不安や疑問を持つ人も多いはず。そんな美容整形に関しての疑問にわかりやすくお答えします。回答は盛・美容外科の院長、盛虹明先生です。



Q1.

いくつかの美容外科にカウンセリングに行きましたが、先生たちの言う内容が違う（施術の回数や方法など）ためどこに行けば良いのか決めることができません。何を決め手とすれば良いのでしょうか。

A1.

少なくともカウンセリング→施術→アフターケアの流れを同じドクターが行っているクリニックが望ましいでしょう。そして患者さんの生活環境（仕事内容・年齢・未婚か既婚か・雰囲気・宗教観など）まで考慮して決めてくれるクリニックなら安心です。ただ、内科などですと、診断すれば治療法はほぼ決まりますが、美容外科の場合、それぞれのドクターの経験・美的センスによって方法などが違ってくる可能性があります。要は一人ひとりの患者の立場に沿った方法を考えてくれるかどうかということに尽きるでしょう。そして、術後のことまでフォローアップし、責任を持ってきちんとやってくれるドクターにめぐり合えれば何より良いことです。

Q2.

鼻を高くする施術を行った後、鼻にボールが当たってしまった、転倒してぶつけてしまった、風邪を引いて鼻を強くかんできましたなど鼻に衝撃を与えてしまった場合、挿入したものがずれてしまうといったケースはありますか？

A2.

結論から言えば、衝撃の強さと角度によりそのようなことはまれにあります。しかし、普通の生活ではまずありませんし、（★）プロテーゼが劣化し、折れてしまうことも現在ではありません。隆鼻術の場合、プロテーゼは骨膜の下に入れるので、基本的に動くスペースがないのです。しかし、ヒフの直下に入れると、手術そのものは簡単ですが、動く可能性が高くなります。また、頭皮の下の筋膜を移植する方法もありますが、プロテーゼを使う場合のように移植された場所で吸収されてしまう（タンパク質として分解されるので身体に影響はない）ため、思った通りに型を作れないでせっかく隆鼻をしても型の保持が難しいのです。

★プロテーゼとは…人工血管などを作っているものを●●●材料で作られた軟骨のこと。

Q3.

脂肪吸引（細い管を脂肪層に挿入し、陰圧をかけて体外に吸い出す手術）をしたとき、その部位が腫れたりすると聞いたのですが、何日ぐらいで腫れは引くのでしょうか。また、脂肪吸引した部位がデコボコになってしまったという話を聞いたのですが、実際均一に吸引できるのでしょうか。

A3.

個人差があるのですが、3日～1週間位で腫れは引きます。完全に落ち着くのは2ヶ月ぐらいかかると思ってください。そして吸引した部位の皮膚と筋層は分離された状態になるため、圧迫することにより元通りに組織を回復させるために圧迫しておく（包帯などを巻く）ことが大切です。手術をした当日を含めて2、3日は安静を保ち、タバコ・お酒も控え目にする必要です。また、お風呂は抜糸するまでは入れません。

脂肪吸引術は、手軽なダイエット方法と考える方もいるようですが、決して簡単なものと思ってはいけないです。また基本的にはデコボコになることはありません。脂肪吸引した部位がデコボコになるのは浅い層（特にお腹の部分の脂肪は浅い層と深い層の2層に分かれている）から吸引した結果なのです。

後は吸引量の問題でしょう。吸引しそ過ぎはいけません。均一にならないのは、ひとえにドクターの「腕」の良し悪しです。脂肪吸引は、いちばんドクターの技量が問われると言われているのです。

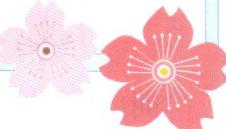
盛・美容外科／盛 虹明院長
医学博士、日本形成外科学会会員
・日本美容外科学会会員

16年間の日本滞在期間中、横浜市立大学医学部形成外科などで経験を積む。
04年6月に上海へ帰国。日本での豊富な経験を活かし、上海で日本と同じ高レベルの治療を提供している。

美容整形なんでもQ&A

連載Vol.4

美容整形が流行している今、「やってみたい！」と興味を持つ一方で、「ホントに大丈夫なの？」と不安や疑問を持つ人も多いはず。そんな美容整形に関しての疑問にわかりやすくお答えします。回答は盛・美容外科の院長、盛虹明先生です。



Q1.

美容整形の技術レベルも年々高くなっていると聞きますが、失敗などはないのでしょうか。あればどんな失敗例があるのか教えて下さい。また、失敗率はどの程度なのでしょうか。

A1.

明かな医療ミス（失敗例）もときどきありますし、稀ですが脂肪吸引などの死亡例もあります。日本の場合、医師免許さえあればだれでも開業する、またはメスを握ることができてしまうので、技術の未熟さゆえの失敗も多々あります。

中国の場合、医師法は日本より厳しいので、未熟さというよりも施術料金が安いので患者が殺到してしまい、まるで工場の流れ作業のようになってしまうのが主な原因です。そのため、医師も忙しく、一人ひとりの患者さんに時間をじっくりかけられないため失敗が起きてしまうのです。しかし、失敗率はごくわずかなので極端に心配する必要もありませんが、広告に出ているから、有名な病院だからという理由だけで判断するのは危険と言わざるを得ません。やはり、医師の人格、技術を見抜く目

を患者さん側も養ってほしいものです。

Q2.

1度に何カ所まで整形可能でしょうか？

A2.

人の美しさは自分自身で作り出すものと考えます。本当の意味での美しさを語る場合、やはり健康ということを抜きにしては不充分でしょう。心と身体のバランスがとれた状態がいちばんです。ところが世の中のほとんどの女性は、自分の容姿に不満やコンプレックスを持ち、その結果、心の健康を害し、まちがったダイエット法などで身体の健康も害するというのが現状です。私たち形成外科医の仕事は美容手術によりそのような胸に抱えている悩みを解消することでもあります。美容外科とは単に手術を行って外見のみを美しくするだけの医療ではなく、身体的な障害、精神的な問題をも解決するという要素も含んでいるのです。

またさらにはそれによって「生きがい」も生まれると言った相互作用も生み出ことさえあるのです。理論上は、1度に何カ所もの手術は可能かも知れませんが、私はバランスのとれた状態がいちばん美しいと思っています。1度に整形をしたのではその大事なバランスを崩すことになるのではないかどうか。トータル的に考えることがとても大切だと考えます。

Q3.

豊胸手術をした場合触り心地などで手術をしたとバレることはあるのでしょうか。また、自分の脂肪を吸引して胸

に注入するということはできるのでしょうか。

A3.

現在行われている豊胸術は、身体に害を及ぼさず見た目や感触もごく自然なもの（生食バッグ、ハイドロジェルバッグ、コヒーシブシリコンバッグなど）が、次々に開発され、安心して施術できるようになりました。手術方法も乳腺下法・大胸筋下法などひとつに限りません。もちろん、触れた感じもごくごく自然ですので、見た目や触れたときにそれとわかることはまずありません。ただ、乳ガン検診を受けられた時にわかる場合があります。普通のレントゲンでは全く気づかれることはありません。

胸に自分の脂肪を注入することに関してですが、現在、学会では正式に認められていません。脂肪は体内に吸収され、個人差は関係なく（着生率が20～30%）約半年で元の大きさに戻ってしまいます。また後でシコリになったり石灰化したり、乳ガンとの区別が難しくなるのでガンと誤診されるケースもあるのでお気をつけください。

**盛・美容外科／盛 虹明院長
医学博士、日本形成外科学会会員・日本美容外科学会会員**

16年間の日本滞在期間中、横浜市立大学医学部形成外科などで経験を積む。
04年6月に上海へ帰国。日本での豊富な経験を活かし、上海で日本と同じ高レベルの治療を提供している。

美容整形なんでもQ&A 連載Vol.5

美容整形が流行している今、「やってみたい！」と興味を持つ一方で、「ホントに大丈夫なの？」と不安や疑問を持つ人も多いはず。そんな美容整形に関しての疑問にわかりやすくお答えします。回答は盛・美容外科の院長、盛虹明先生です。



Q1.

顔中にニキビ痕がいくつも残っているのですが、痕を完全に取り除くことは可能でしょうか。またどのような施術を行うのでしょうか。赤ら顔も施術可能でしょうか。

A1.

完全には取れません。しかし、ほぼ完全に近いかたちで取り除くことはできます。ニキビ痕や赤ら顔には「ピーリング」という方法で施術します。「ピーリング」とは、皮膚に*化学物質を塗布し、表皮の角質層を剥離させ、表皮と真皮の再生を促す自然治癒過程を利用し、主に若返り目的で始められた剥皮術の1つの方法です。ニキビ痕や赤ら顔に適していると言えます。また、大きく開いた毛穴を収縮させる効果もあります。小じわ、シミ、黒ずみ、くすみなどにも良く効きます。7日間～10日間の割合で施術を行い、だいたい6回ほど（個人差あり）で終了します。

安全性が高まったことから、98年ごろから急速に普及しています。

*分子量が最も小さく、浸透性の高いグリコール酸。ほかには、酒石酸、クエン酸、リンゴ酸などもあり、果物に

含まれることから俗にフルーツ酸と呼ばれている。

Q2.

永久脱毛の施術をするとワキガになると聞きました。実際はどうなのでしょうか。

A2.

全くの誤解です。ワキの脱毛をすることによって、逆にワキガの症状が改善されるケースが多いのです。なぜなら、脱毛によって汗腺が萎縮され、汗の分泌量がかなり減らせます。ですから、ワキのにおいが少くなります。

Q3.

出産する前から「出産後は妊娠線が残る」と聞いていましたが、妊娠線が気になります。友人などに聞くと時間が経てば薄くなると言われたのですが、本当に薄くなるのでしょうか。また、完全に消したい場合はどのような施術を行うのでしょうか。

A3.

出産後は、妊娠線が残る場合もありますし、残らない人もいます。確かに時間とともに薄くなっています。しかし、消えることはないのです。また、現時点では完全に消す技術と方法は残念ながら未だありません。なぜなら、そもそも妊娠線というものは、コラーゲン繊維が切断され、*疤痕組織になったものです。

一般的には疤痕を切除する方法はあります、妊娠線の場合は、量が多くなるため、この方法は適応できません。

Q4.

妊娠線が残る人とあまり残らない人がいると聞いたのですが体質や妊娠中のお腹の大きさなどに関係があるのでしょうか。

A4.

体質的に疤痕になりやすい人となりにくい人がいます。遺伝子によるものと考えられます。お腹の大きさも関係あります。皮膚の弾力は、コラーゲンによるものであり、お腹が大きくなればなるほど、コラーゲンがゴムのように伸びていってしまいます。しかし、限界を超えると切れてしまい疤痕になるのです。つまり妊娠線になります。

盛・美容外科／盛 虹明院長
医学博士、日本形成外科学会会員
員・日本美容外科学会会員

16年間の日本滞在期間中、横浜市立大学医学部形成外科などで経験を積む。04年6月に上海へ帰国。日本での豊富な経験を活かし、上海で日本と同じ高レベルの治療を提供している。

美容整形なんでもQ&A 連載Vol.6

美容整形が流行している今、「やってみたい！」と興味を持つ一方で、「ホントに大丈夫なの？」と不安や疑問を持つ人も多いはず。そんな美容整形に関しての疑問にわかりやすくお答えします。回答は盛・美容外科の院長、盛虹明先生です。

Q1.

日焼けをした後に小さなできものができて、いつのまにか小さなイボのようなものになってしまったのですが、これは一体何でしょうか。取る方法はあるのでしょうか。また、どのような施術をするのでしょうか。

A1.

結論から言ってこれはイボです。取る方法はいくつかあります。レーザーを使う方法、電気メスでいわゆる焼く方法です。また、窒素を使って取り除くこともできます。イボはウイルスによるものですから、どんどん増える可能性があり、家族にもうつることもあります。ですから、早期の治療をおすすめします。

Q2.

おしりや太ももなどにできるセルライトは、どうしてできてしまうのでしょうか。また、消すことは可能なのでしょうか。

A2.

セルライトは、簡単に言えば脂肪の固まりのことです。通常脂肪細胞は血管に隣接し、血液が運ぶ中性脂肪や糖を取り込み、エネルギーとして蓄えます。しかし、セルライトは肥満と違い、脂肪細胞が血管から離れて浮遊し、体温が伝わりにくく状態になります。そしてさらに浮遊する脂肪細胞にたまつ老廃物がそれに付着して、少しづつ「ボコボコ」に大きくイモのような状態になってしまいます。このような状態になってしまうと冷え性や足のむくみの原因にもなります。

さて、消す方法ですが、ローリング（皮フをローラーでマッサージする）や低周波での振動などがあります。しかし、いちばん効果が高いのはやはり脂肪吸引です。

Q3.

笑うと歯ぐきが目立ってしまって、つい口元を手で隠したり、おもいっきり笑うことができません。出っ歯を治す方法はあるのでしょうか。また、どのような方法なのでしょうか。

A3.

歯ぐきが目立ってしまうのといわゆる出っ歯とはまったく違うものです。したがって、治療法も当然異なります。出っ歯を治す方法は、上顎骨（上あごの骨）形成術を行います。歯ぐきが目

立ってしまう場合には上くちびる中のじん帯を短くすることで治せます。これは美容形成外科の分野です。

Q4.

私は男性です。もともと毛深いのですが、顔の髭剃りあとが昔よりも青々と目立ってきたのですが、目立たないようにする方法はあるのでしょうか。それとも体質なのでムリなのでしょうか。

A4.

毛深い男性の多くは、男性ホルモンが多いので、毛の生えるスピードが速く、剃りあとがすぐに目立ってしまうのです。これは体質と関係があります。方法としては、レーザーによる脱毛でしょう。しかし、1~2回ですぐに改善するということは難しく、だいたい半年から1年間くらいかかります。必ず治せますので安心して下さい。



盛・美容外科／盛 虹明院長
医学博士、日本形成外科学会会員・日本美容外科学会会員

16年間の日本滞在期間中、横浜市立大学医学部形成外科などで経験を積む。

04年6月に上海へ帰国。日本での豊富な経験を活かし、上海で日本と同じ高レベルの治療を提供している。